

1. 本時の位置付け

本時は、高等学校学習指導要領(平成30年告示)及び同解説【家庭編】に記載されている以下の内容の一部と関連します。

展開①	<p>【「お金を増やしたい」とき】 【「金融商品」を選ぶときの注意点】</p>	<p><u>家庭基礎</u> C(1) ア 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解すること。 <解説> ・預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴(メリット、デメリット)、資産形成の視点にも触れるようにする。 C(2) ア 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できること。 <解説> ・契約は、申し込みと承諾という互いの意思表示の合致により成立し、方式は原則自由であること、契約が発生すると互いに権利と義務が発生し、どちらか一方の都合でやめることはできないこと等、中学校における学習を踏まえた上で、実際には事業者と消費者の間に情報や交渉力の格差が存在するため、その格差是正のための消費者支援・消費者保護があることや、消費者被害の未然防止の重要性について理解できるようにする。</p>
展開②	<p>【「使う」「貯める」「増やす」のバランスを考える】</p>	<p><u>家庭基礎</u> C(1) ア 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解すること。 <解説> ・家計管理については、収支バランスの重要性とともに、リスク管理も踏まえた家計管理の基本について理解できるようにする。</p>

また、金融リテラシー・マップとの関係では、「分類 1 家計管理」、「分類 2 生活設計」、「分類 3 金融取引の基本としての素養」、「分類4 金融分野共通」、「分類5 保険商品」、「分類 7 資産形成商品」、「分類8 外部の知見の適切な活用」の学習を含んでいます。

2. 本時の目標

- ・ 「お金を増やしたい」とき、「金融商品を選択する」ときの着眼点について理解する。
- ・ 支出・貯蓄・投資それぞれの特徴を踏まえ、実践に向けた計画を考え、表現する。

3. 評価のポイント

- ・ 「お金を増やしたい」とき、「金融商品を選択する」ときの着眼点について理解している。
- ・ 支出・貯蓄・投資それぞれの特徴を踏まえ、実践に向けた計画を考え、表現している。

4. 本時の流れ

本時は、J-FLEC 提供教材「新成人のための人生とお金の知恵」を活用して授業を展開します。

	テーマ	学習活動(●は教師の活動、○は生徒の活動)	指導上の留意点
導入 5分	【はじめに】	<div>将来のお金の使い方、貯め方、増やし方は？</div> <p>●教材を提示する。 ○教材を見て、お金を増やすことについて意識を向ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全ての生徒が教材にアクセスできているか確認する。 必要があれば、提示できるよう支援する。
展開① 15分	【「お金を増やしたい」とき】 【「金融商品」を選ぶときの注意点】	<div>お金を増やすには、どうする？</div> <p>●教材の見出し③、ワークシート1を示し、「お金を増やしたい」時に、どんなポイントがあるのか、説明する。 ○ワークシート1の記入を通して、「お金を増やしたい」ときに考える6つのポイントを学ぶ。</p> <div>金融商品を選ぶには？</div> <p>●教材の見出し④、ワークシート2を示し、「金融商品」を選ぶときの注意点について、説明する。 ○ワークシート2の記入を通して、「金融商品」を選ぶときの注意点について学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「投資リスク」について、「投資リスク」を減ずるために、「長期・分散・積立」が推奨されることについて、より多くの時間をかけて、詳しく取り上げることにも可能。
展開② 20分	【「使う」「貯める」「増やす」のバランスを考える】	<div>「使う」「貯める」「増やす」のバランスは、どうする？</div> <p>●ワークシート3を示し、「使う」「貯める」「増やす」の3つのバランスについて、自分なりに考えることの必要性を説明する。 ○ワークシート3の記入を通して、「使う」「貯める」「増やす」の3つのバランスの重要性について学ぶ。 自分の希望や習慣なども考え合わせて、3つのバランスを考えてみる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教材の見出し⑥を参考にすると、不測の事態への備えについて考えやすい。 この授業に先立ち、「社会保険・民間保険」について学習している場合は、その振り返りをしながら、貯金と保険の違いや社会保障制度との関連に迫れるとよい。
まとめ 10分	学習のまとめ	<div>将来の支出・貯金・投資について考える</div> <p>●ワークシート4を示し、本日の学習を踏まえて、将来の支出・貯金・投資について、生徒自身が考える時間を設ける。 ○ワークシート4の記入を通して、将来の支出・貯金・投資と、どう向き合いたいのか、現時点での自分の考えを記述する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 将来の支出・貯金・投資に向けて、今から知識を蓄え、自分で考えることの必要性に気づけるとよい。 (各自のライフスタイルや価値観が大きく関わる事柄なので、「正解が1つではない」ことを意識させるとよい)

5. ワークシートの解答・解答例

ワークシート

くらしとお金の知恵 ～「使う」「貯める」「増やす」～

年	組	番	名前
---	---	---	----

1. 「お金を増やしたい」とき

(1) ()内の適する方に、○を記入しよう。

預貯金 「安全性」(高い~~低い~~) 「収益性」(高い~~低い~~)

株式 「安全性」(高い~~低い~~) 「収益性」(~~高い~~低い)

(2) 空欄に適する語を記入しよう。

「安全性」と「収益性」がともに高い金融商品は

存在しません

「安全で、収益性の高い金融商品」は、

投資詐欺

 でよく使われる誘い文句です。

「

長期

 ・

分散

 ・

積立

 」投資を低コストで行う、という運用方法を知りましょう。

お金を運用するとき、「複利の力」を意識 「

72

 の法則」を使う

72÷

金利

 =

お金が2倍になる

 年数

2. 「金融商品」を選ぶときの注意点

①～③の空欄に適する語を記入しよう。

① 金融商品は、「

金融庁の免許等を受けている事業者

 からしか購入しない」と決めておく。

② 「

自分

 がきちんと

理解できる

 商品しか買わない」と決めておく。

③

情報

 は、「

どのような立場

 から提供されているか」に注意する。

3. ここまでを振り返りながら、将来、経済的に自立したときのことについて、考えてみましょう。

(1) つぎのような場合、「使い道を自由に決めることができるお金」を、「使う」「貯める」「増やす」の3つに振り分けるとしたら、「何円ずつにしたいですか。例も参考にして、下の表に記入しよう。

○就職して、18ヶ月が経過した。賃貸住宅に一人で暮らしている。扶養家族はいない。

○毎月の給料から、食費・光熱費・家賃等の必要な支出を差し引くと、「月々1万5千円、使い道を自由に決めることができるお金」がある。

(2) その金額を何にしたいか、例も参考にして、記入しよう。

(大体の方向性の記入でよい。具体的な商品や銘柄が決まっている場合は、それを記入しよう。)

(3) (1)、(2)を、そう決めたのは、なぜか？ その目的などを、例も参考にして、記入しよう。

	使う(支出する)	貯める(貯金する)	増やす(投資する)
(1) 金額	例 5千円 6千円	例 5千円 8千円	例 5千円 1千円
(2) 何に？	例 友人との外食などを楽しむために:3千円 スマホで映像や音楽を楽しむために:2千円 ・ キャリアアップのための資格の勉強に 4千円 ・ 健康的な食事のために食費に上乗せ 2千円	例 病気やけがなど不測の事態に備える貯金:2千円 旅行やレジャーのための貯金:3千円 ・ 不測の事態のための貯金 4千円 ・ 使うことが決まっていることのための貯金 4千円	例 投資信託(積立):3千円 株式(積立):2千円 ・ 投資信託(積立) 1千円
(3) なぜ？ (目的等)	例 ・健康に働き続けたい ・働く意欲を高めるには楽しむことが大切 ・ 今より収入を増やしたいので、働く能力を高めるため、資格を取得する ・ 身体に良くて自分が好きな乳製品を積極的に摂る	例 ・病気やけがなどは、健康保険だけでは、全部はカバーできない ・普通預金または現金で貯金しておきたい ・ 暮らしのリスクへの備えと、心の余裕の確保のために、この時期は貯金を頑張りたい	例 ・社会的に貢献している企業を応援したい ・少額で多くの企業に投資できる投資信託を考えたい ・地元企業を応援するためにその株式を購入したい ・ 余裕資金作りのための貯金をまずは頑張るので、まだ投資は少ない ・ 勉強のために、ちょっと関わってみたい

4. 学習をふりかえりながら、将来の支出・貯金・投資について、自分の考えを記入してみましょう。

・必要なものと欲しいものとは、支出をきちんと分けて考えたい。

・貯金ゼロだと、いざ必要ときに借金することになって、その返済に追われると、いつまでたっても貯金を始められない。生活費の3ヶ月分をまずは貯めていきたい。

・少額積立で知識を増やしつつ、将来に備えるのもいいと思う。

・「世の中に、うまい話はない」と覚えておきたい。

3

くらしとお金の知恵 ～「使う」「貯める」「増やす」～

年 組 番	名前
-------	----

1. 「お金を増やしたい」とき

(1) ()内の適する方に、○を記入しよう。

預貯金 「安全性」(高い・低い) 「収益性」(高い・低い)

株式 「安全性」(高い・低い) 「収益性」(高い・低い)

(2) 空欄に適する語を記入しよう。

「安全性」と「収益性」がともに高い金融商品は

「安全で、収益性の高い金融商品」は、 でよく使われる誘い文句です。

「 」・「 」・「 」投資を低コストで行う、という運用方法を知りましょう。

お金を運用するとき、「複利の力」を意識 「 」の法則を使う

$72 \div \text{ } \div \text{ } \text{年数}$

2. 「金融商品」を選ぶときの注意点

①～③の空欄に適する語を記入しよう。

① 金融商品は、「 」からしか購入しない」と決めておく。

② 「 」がきちんと「 」商品しか買わない」と決めておく。

③ 「 」は、「 」から提供されているか」に注意する。

3. ここまでを振り返りながら、将来、経済的に自立したときのことについて、考えてみましょう。

(1) つぎのような場合、「使い道を自由に決めることができるお金」を、「使う」「貯める」「増やす」の3つに振り分けたら、「何円ずつ」にしたいですか。例も参考にして、下の表に記入しよう。

○就職して、18ヶ月が経過した。賃貸住宅に一人で暮らしている。扶養家族はいない。

○毎月の給料から、食費・光熱費・家賃等の必要な支出を差し引くと、「月々1万5千円、使い道を自由に決めることができるお金」がある。

(2) その金額を何にしたいか、例も参考にして、記入しよう。

(大体の方向性の記入でよい。具体的な商品や銘柄が決まっている場合は、それを記入しよう。)

(3) (1)、(2)を、そう決めたのは、なぜか？ その目的などを、例も参考にして、記入しよう。

	使う(支出する)	貯める(貯金する)	増やす(投資する)
(1) 金 額	例 5千円	例 5千円	例 5千円
(2) 何に？	例 友人との外食などを楽しむために:3千円 スマホで映像や音楽を楽しむために:2千円	例 病気やけがなど不測の事態に備える貯金:2千円 旅行やレジャーのための貯金:3千円	例 投資信託(積立):3千円 株式(積立):2千円
(3) なぜ？ (目的等)	例 ・健康に働きたい ・働く意欲を高めるには楽しむことが大切	例 ・病気やけがなどは、健康保険だけでは、全部はカバーできない ・普通預金または現金で貯金しておきたい	例 ・社会的に貢献している企業を応援したい ・少額で多くの企業に投資できる投資信託を考えたい ・地元企業を応援するためにその株式を購入したい

4. 学習をふりかえりながら、将来の支出・貯金・投資について、自分の考えを記入してみましょう。